

京都大学経済学研究科附属プロジェクトセンター主催

先端ファイナンスビジネス研究会

第三弾!

ファンドリサーチビジネスと資産運用



- ・ 講師: 清水正人氏
野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジー株式会社 取締役
- ・ 日時: 12月22日(木) 16:30-18:00
- ・ 場所: 総合研究2号館1階(大講義室)
- ・ お問合せ: 経済学研究科附属プロジェクトセンター 加藤/遠藤
Mail: kato@econ.kyoto-u.ac.jp
Tel: 075-753-3429(加藤)/3531(遠藤)

近年、世界経済は「ファンド資本主義」と呼ばれるように大型ファンドによって経済がファイナンスされるケースが増えている。これはシャドーバンクとも呼ばれ、既存の金融機関に対する規制が強化される中、新しいファイナンスルートになっている。一方でヘッジファンドを含めファンドの数が膨大になっており、投資家にとってはファンドの選択がますます難しくなっている。野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジー株式会社は国内最大手のファンド調査・評価機関であり、顧客に調査・分析・評価サービスを提供している。同時に、複数のファンドを組み合わせた金融商品であるファンド・オブ・ファンズ等の運用サービスも行っている。今回は、ファンドリサーチ・ビジネスの現場からその実態や方法論を学び、ファンド資本主義の今後を検討する。

ITや金融技術の進展は金融ビジネスを大きく変貌させている。それは、リーマンショック以降も同様である。ファイナンスビジネスは伝統的な業態(銀行、保険、証券など)を中心とした構造から、新たな付加価値をもたらす新しいプレーヤーが大きな影響力を持つようになって来ている。ヘッジファンドや格付け機関はその象徴であろう。広く金融市場、企業ファイナンスを理解するうえで、これら新しいプレーヤーの役割を理解することは必須となっている。

「先端ファイナンスビジネス研究会」では、これらの新しいプレーヤーを理解することを目的とし、各分野の実務担当者を招き講演、自由討議を行うものである。頻度は月に一回程度とする。

京都大学経済学研究科教授 加藤康之